

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立山王小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTの活用や実験時間の十分な確保を継続したことは、児童の学力定着に効果的だった。
- ・自然の事物や現象について、意欲的に観察したり実験したりする児童が増えた。
- ・器具や機器を正しく扱いながら、実験・観察を行うことができる児童が増えた。

(2) 課題

- ・観察や実験の結果を記録することはできるが、結果を基に考察し自分の考えを表現することに課題が残る。
- ・自然事象について、生活経験や既習事項と関係づけて予想を立てたり、結果から考察したりすることに課題が残る。
- ・用語を正しく理解していない児童が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	○ほとんどすべての領域で、目標値や全国平均正答率を上回っている。問題の内容別正答率を見ると、「太陽と地面の様子」「磁石の性質」の単元において目標値を若干下回った。		
第5学年	○観点別では、どの観点も目標値、区平均、全国平均を上回った。 ○領域別では、物質・エネルギー領域、生命・地球領域どちらも目標値、区平均、全国平均を上回った。 ○問題の内容別でも、すべての項目で目標値、区平均、全国平均を上回った。	○観点別では、どの観点も目標値、区平均、全国平均を上回った。「主体的に取り組む態度」が、目標値と同程度となっている。 ○領域別では、どの領域も目標値、区平均、全国平均を上回った。 ○問題の内容別では、ほとんどの項目で目標値、区平均、全国平均を上回ったが、「月と星」で、0.3pt、「雨水のゆくえと地面のようす」で2.7ptそれぞれ目標値を下回った。	

		(第4学年時)	
第6学年	○観点別では、どの観点でも目標値、区平均、全国平均を上回った。 ○領域別でも、どの領域でも目標値、区平均、全国平均を上回った。 ○問題の内容別では、ほとんどの項目で、目標値、区平均、全国平均を上回った。特に、「植物の花のつくりと実」では28.1pt、「物のとけ方」では18.9pt 目標値を上回った。しかし、「植物の発芽と成長」では7pt、「ふりこのきまり」では14.3pt それぞれ目標値を下回った。	○観点別では、どの観点も目標値、区平均、全国平均を上回った。「主体的に取り組む態度」が、目標値と同程度となっている。 ○領域別では、どの領域も目標値、区平均、全国平均を上回った。 ○問題の内容別では、ほとんどの項目で目標値、区平均、全国平均を上回ったが、「月と星」で、0.3pt、「雨水のゆくえと地面のようす」で2.7pt それぞれ目標値を下回った。 (第5学年時)	○ほとんどすべての領域で、目標値や全国平均正答率を上回っている。 ○問題の内容別正答率を見ると、「植物の育ち方」「太陽と地面の様子」「光の性質」で全国平均正答を若干下回った。 (第4学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○目標値、区平均、全国平均を上回っており、概ね良好と思われる。	○目標値、区平均、全国平均を上回っており、概ね良好と思われる。	○身近な自然事象に対する関心が高く、すすんで学習に取り組もうとする様子が見られる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○目標値、区平均、全国平均を上回っており、概ね良好と思われる。特に第6学年では区平均が9.2pt と大きく上回っている。	○目標値、区平均、全国平均を上回っており、概ね良好と思われる。特に第6学年では区平均が7.2pt と大きく上回っている。	○身近な自然事象に対する関心が高く、他者と関わりながら、すすんで学習に取り組もうとする様子が見られる。 ○学んだことを学習や生活に生かそうとする姿が見られる。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○実験や観察の時間を十分に	○学習問題に対して根拠をも	○単元の導入では、児童が追究

確保する。一人一人が実験器具に触れて操作を行う機会を大切にすることで、実感を伴った理解ができるようにする。 ○重要な用語は、学習の中で繰り返し提示し、児童が理科の用語を正しく理解し使うことができるようにする。	って予想を立て、観察や実験の視点を明確にしてから活動に入る。 ○実験結果の考察場面では、「予想と同じで～」 「予想と違って～」等の型を活用し、予想と結果を比較して自身の考えを表現できるようにする。	したくなるような教材との出会いの場づくりをする。 ○活動の中で児童が感じた疑問を基に、学級全体で問題作りを行う。 ○一人一台端末を活用して、学習内容の発展的な内容にも触れる機会を設ける。 ○校内の自然環境や理科室の実験器具の整備、充実を図ることで、学習への意欲・関心を高められるようにする。
--	--	---

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○実験の手順や観察の視点を具体的に提示し、児童が思考を整理しながら新しい知識を獲得できるようにする。 ○実験器具の名称や理科の用語については、授業の中で繰り返し確認し活用する場面を取り入れることで、知識の定着を図る。 ○実験を行う際には、一人一人が作業に関わることができるようペアやグループでの活動を工夫し、確かな技能が身に付くようにする。	○実験の方法を考える際には、どのような条件制御を行う必要があるかを児童に問い、実験の計画を立てることができるようにする。 ○予想の場面では、生活経験や既習事項に基づいて根拠をもって考えを表現できるよう、声掛けを行う。 ○考察の場面では、問題に対する答えを自身の言葉で説明できるようモデルを示し、思考したことを表現する力を付ける。 ○考察したことから導き出した結論をもとに、新たな問題を見出だしたり、身の回りの自然現象と関係付けたりして思考する力を伸ばしていく。	○各領域について、身の回りの自然現象と関係付けられるような導入を取り入れ、児童の疑問や興味に寄り添いながら問題を設定する。 ○理科指導支援員と連携し、実験道具の整備や数の充実を図るだけでなく、児童の見出した問題を解決できるような教材や資料を用意し、主体的に問題解決に向けて追究できる環境を整える。 ○図書資料やタブレット端末を活用し、発展的に調べ学習ができるような機会を設け、児童の興味・関心を高めていく。